

公立大学法人宮城大学 業務実績報告書
評定概要
(令和5年度)
【事業年度評価】

令和6年6月

公立大学法人宮城大学

公立大学法人宮城大学 業務実績報告書（令和5年度）【事業年度評価】 評定概要

大項目及び中項目	小項目〔細目番号〕	令和5年度 評定								
		Ⅳ 年度計画を大幅 に上回って実施		Ⅲ 年度計画を予定ど おり実施		Ⅱ 年度計画を十分 に実施せず		Ⅰ 年度計画をほと んど実施せず		計
第1 教育研究の質の向上		2	7.4%	24	88.9%	1	3.7%	0	0.0%	27
1 教育に関する目標	(1) 入学者受入〔1-6〕 (2) 教育の内容等〔7-12〕 (3) 教育実施体制等〔13-16〕 (4) 学生への支援〔17-21〕	1	4.8%	19	90.4%	1	4.8%	0	0.0%	21
2 研究に関する目標	〔22-24〕	1	33.3%	2	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	3
3 教育研究環境の整備 に関する目標	〔25-27〕	0	0.0%	3	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	3
第2 地域貢献等	1 地域貢献〔28-31〕 2 国際交流〔32-33〕	1	16.7%	5	83.3%	0	0.0%	0	0.0%	6
第3 業務運営の改善及び効率化	1 運営の改善〔34-35〕 2 人事の適正化〔36-37〕 3 事務等の効率化・合理化〔38〕	0	0.0%	5	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	5
第4 財務内容の改善	1 自己収入の確保〔39-40〕 2 経費の抑制〔41〕 3 資産の運用管理の改善〔42〕	0	0.0%	4	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	4
第5 教育及び研究並びに組織及び運営 の状況に係る自己点検・評価並びに当 該状況に係る情報の提供	1 自己点検・評価の充実〔43-44〕 2 情報公開の推進等〔45〕	0	0.0%	3	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	3
第6 その他業務運営	1 施設設備の整備・活用等〔46〕 2 安全管理等〔47-48〕 3 人権の尊重〔49〕	0	0.0%	4	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	4
合 計		3	6.1%	45	91.8%	1	2.1%	0	0.0%	49

		No.	主な内容	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R5計画	R5実績	
第1 教育 研究 の 質	(1) 入学者の受入	イ 学士課程	1	アドミッションポリシーに基づく入学選抜試験の実施	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	・アドミッション・ポリシーの改正	・R7入学選抜の変更点を踏まえた改正を実施
			2	高校訪問や入試説明会等の広報活動を通じた出願者の確保	Ⅳ	Ⅲ	Ⅳ	・新入生アンケート調査等による入試広報事業の有効性検証や実効性ある入試広報計画の策定・実施	・オープンキャンパスに3,165人が来場し、入試説明会には223組が参加（両キャンパス合計、太白キャンパスで過去最大の来場者） ・県内外高校等教員向け説明会参加 ・東北、北陸、北関東、中部地区の高校等訪問により進路指導担当者等との意見交換を実施（152校訪問） ・北海道・東北地区を中心に保護者向けの進学相談会等へのイベント出展（17会場） ・対面とオンラインを併用した説明会の実施（41校） ・看護学系会場への出展に加え、新たに農学系会場へも出展
			3	国の動向や入試IR等を踏まえた入学選抜制度の検討・改善	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	・R7入学選抜に向けた入試システム、マニュアル等の更新に着手	・R7入学選抜に向けた入試システム、マニュアル等更新 ・基盤、高大連携、ACにてFD共催
			4	国の動向や県内高校のニーズ等を踏まえた高大連携事業の展開	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	・高大連携事業の全学的な運営体制継続と高大ネットワークの拡充 ・アカデミックインターンシップ プログラムの充実	・「EDGE-PRIME Initiative」の取組について事業構想学群と連携
	ロ 大学院課程	5	アドミッションポリシーに基づく入学選抜試験の実施	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	・必要に応じたアドミッション・ポリシーの改定による入試方法の改善		
		6	入学選抜制度の改善及び広報活動を通じた定員充足率の向上	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	・（看護）ウェブサイトの効果的な活用、入試相談会の実施 ・（事業）前期課程の試験制度、後期課程の領域変更を積極周知 ・（食産）後期課程について、関連学会等の専門家集団ネットワークを利用した進学者の発掘・育成 ■【指標】大学院定員の充足（100% 令和8年度）	・（看護）社会人選抜実務経験年数5年→3年に変更。内部進学者向けキャリアガイダンス、交流会、座談会の実施 ・（事業）リカレントプログラムとの融合等を視野に入れたプログラム提供体制の検討 ・（食産）学会を通して社会人志願者を確保 ■【指標】大学院定員の充足（71.2%）	
	(2) 教育の内容等	イ 学士課程	7	ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー等に基づく教育課程の編成と学修成果の可視化	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	・カリキュラム評価のためのモニタリング・学修成果の可視化実施 ・（事業）イノベーションデザインスキル習得機会の拡張・展開のための他機関連携によるプログラム体系設計 ・（食産）1・2年次の専門基礎科目提供 ・（基盤）導入、教養、学群共通科目の編成・実施の検討促進 ・卒業時の学修成果測定結果の可視化、分析によるDPに対する教育効果、測定方法の妥当性の検証、改善 ・「宮城大学教学アセスメントプラン」本実施に向けた修正・改善 ・教学IRの基本的な指標の可視化の試行、センター等の情報の活用状況把握	・可視化ツールを活用した科目単位毎の授業改善 ・（事業）1年次の専門基幹科目提供。イノベーションデザインスキル習得のためのプログラム体系設計に関する検討 ・（食産）新たな専任教員の採用による教育課程の充実 ・（基盤）基盤教育共通ビジョン策定に向けた「教育DX」文献の収集、供覧。新指導要領を踏まえた課題の検討 ・「宮城大学教学アセスメントプラン」本実施に向けた卒業・修了生アンケート実施に対する課題の洗い出し等実施 ・「情報戦略推進基本計画」等策定、エンrollmentマネジメント分析試行
			8	基盤教育と専門教育との連続性を高めた効果的な教育課程の提供	Ⅳ	Ⅲ	Ⅲ	・新教育課程の検討・検証、シラバス、授業内容、時間割等の見直し ・キャンパス間遠隔授業の試験的導入準備 ・地域FW新カリキュラム下での講義内容の検証着手、大和キャンパスフィールド数の適性化 ・2年次以降のCP科目について、再構成及び講義内容の検証に着手 ・（看護）災害看護プログラム デジタルを活用した運用方法の整備 ・（看護）大学近隣住民との防災活動の共同及び授業展開の充実 ・（看護）スキルラボの利用促進、評価検討 ・（看護）「学びの振り返り」のeポートフォリオ化、新入生から開始 ・（看護）独自開発のデジタル教材の利活用継続、教育DXの推進 ・（事業）「デジタル・トランスフォーメーションの教育への利活用機会の展開事業」促進 ・（事業）VR教育コンテンツの開発によるイノベーションデザインに寄与する教育・研究を促進 ・（事業）遠隔授業の活用による他大学等との教育プログラムの構築 ・（食産）食産業への知識や関心を高める基盤科目の運用改善、専門科目への効率的な橋渡し ・（基盤）対面授業と遠隔授業の効果的な配分の検討 ・遠隔授業やデジタルツールを活用したアクティブラーニング等による効果的な教育方法の試行 ■【指標】期間中の地域連携型実践教育科目履修者（アソシエイト取得者）総数（210人/R8）※年平均35人 ■【指標】地域連携型実践教育科目履修者の自己評価（R5：80点以上（試行））	・学群横断型時間割編成組織立ち上げ、シラバス確認による教育内容の見直し ・（看護）「シムマスタープログラム初級」5回開講 ・（食産）「コミュニケーション学（面接からプレゼンテーションまで）」13回開講 ・（基盤）「福祉入門」遠隔実施（継続） ・地域FW大和キャンパスフィールド数2→3 ・授業評価アンケート、自己評価アンケートを踏まえた科目再構成、講義内容検証・改善着手 ・（看護）災害看護プログラム ポートフォリオ表彰開始 ・（看護）国際看護プログラム 研修プログラム内容を適宜変更し実施 ・（看護）MYU-TOWN、スキルラボ シミュレーション学習で利活用増加 ・（看護）eポートフォリオ運用開始 ・（看護）MYU-TOWN教材 複数教材を新増築し利活用促進 ・（事業）伝統工芸や生活デザイン等VR教育コンテンツ開発により、イノベーションデザインに寄与する教育・研究を促進 ・（食産）2年次「食材生産概論」「フードマネジメント概論」実施 ・（基盤）4科目遠隔授業実施、一部オンデマンド授業組込、学生の反応測定、担当教員の意見聴取実施 ・令和6年度からの新たなeラーニングコンテンツ導入に向けた調整推進 ・（看護）シミュレーション演習プログラム新実施 ■【指標】期間中の地域連携型実践教育科目履修者（アソシエイト取得者）総数（令和5年度：93名） ■【指標】地域連携型実践教育科目履修者の自己評価（令和5年度：88点）

		No.	主な内容	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R5計画	R5実績	
		9	学生一人一人の個性を伸ばすための実践的な教育プログラムの展開	IV	IV	III	※No.8再掲 ・数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度申請を進める。 ・DX事業による教材・教育プログラムの向上・発展、遠隔授業によるリカレント教育履修者の拡大・拡充	・（基盤）「国際日本学」「文化人類学概論」での英語を積極的に用いた授業展開。「グローバル・ビジネス」におけるJETRO講師による実践的授業の提供。最前線で活躍する起業家を講師とする「アントレプレナー基礎」での実践的教育プログラム提供 ・数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度申請手続きを進めた。 ・（看護）※No.8再掲 ・（事業）「宮城大学・JICA連携グローバル・プログラム」新規4科目、計5科目開講 ・（食産）「食産業学基礎演習」「スタートアップセミナーⅠ（基礎ゼミ）」を通して学生の最適な学修パス選択を支援 ・（看護）東北医科薬科大学との連携事業IPEプログラム調整会議、JCHO仙台での健康教育プログラム実施 ・（看護）MYU-TOWN教材における複数教材の開発、授業内利活用。みやぎ・テレナース育成プログラムの開講、16名の修了生輩出	
		□ 大学院課程	10	ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づく教育課程の編成	III	III	III	・（看護）在宅看護CNS養成課程設置及びR6からの後期課程改定 ・（事業）「ソーシャル・デザイン領域の専門性高度化事業」を基礎としたパブリックマネジメントプログラム開発の検討、リカレント大学院教育プログラムの運用検討 ・（食産）R4完成年度を迎えた前期課程の教育課程、授業内容等の見直し ・学位論文審査基準に基づく厳格な学位論文審査の実施。学位論文指導研究計画の明示に関する検討	・（看護）在宅看護CNS養成課程、同養成コース申請に向けた教育体制、科目内容の見直し、申請準備WG立ち上げ ・（事業）DP/CP点検、博士前期課程 履修規程改正 ・（食産）DP/CP点検、博士前期課程 科目到達目標、評価基準等見直し 後期課程 授業内容見直し
			11	教育内容の改善及び学修成果の可視化	III	III	III	・大学院の教育改善に資する分析方法検討	・厳格な学位論文審査実施。学生、教員双方からの学位論文指導研究計画書確認を通じた充実した学位論文指導 ・研究科間での学修成果測定結果比較ツール導入、教育効果の検証実施
			12	将来を見据えた魅力ある大学院教育の再構築	III	III	III	・（看護）ハイブリッドシミュレーターを活用した実践教育 ・（看護）在宅看護専門看護師教育課程の申請、同養成コース開設準備 ・（事業）実学教育をはじめとするデザイン思考の強化に向けた適切な科目配置検討 ・（食産）各研究分野におけるDX教育の充実	・（看護）ストレート進学に関するニーズ把握、CNS養成コース開設のための実践教育、遠隔看護教育の検討 ・（看護）在宅看護CNS養成課程、同養成コース申請に向けた教育体制、科目内容の見直し、申請準備WG立ち上げ ・（事業）大学院プログラムとの連携を視野に入れたDXリスリングプログラムの実施 ・（食産）データサイエンスと関連する内容を取り込んだ講義の実施 ・社会人向け遠隔講義授業、遠隔研究指導の積極的活用
			13	教育研究組織の整備	III	III	III	・大学改革の理念・目的に適合した組織体制となっているか点検し、必要に応じて改善	・リカレント教育推進本部設置
		□ 教員・教員組織	14	教員組織編成方針等に基づく教員の適切な配置	III	III	III	・教育研究活動を展開するために必要な教員を適切に配置	・学系組織の在り方検討
			15	教員評価制度等による教員の適切な評価と質の向上	III	III	III	・教員評価制度検討委員会による点検を通じ、必要に応じた教員評価制度の随時改善	・教員評価結果を勤勉手当成績率に反映
			16	ファカルティ・ディベロップメント等を通じた教員の自己研鑽と教育の質の向上	III	III	III	・望ましい教員像及び教員組織の編成方針の策定 ・階層化レベルでの活動が効果的に連動するFD実施継続	・望ましい教員像及び教員組織の編成方針の策定プロセス推進 ・マクロ1件、ミドル10件、ミクロ13件のFD・SDを実施
			17	学生支援方針等に基づく学生への支援	IV	III	III	・学生の4年間の行動に学修行動調査に関する比較・分析	・ALCS学修行動比較調査 回答率78.44%→89.50% ・5 類移行後は通常どおりサークル活動等の正課外活動を許可
		□ 学修・生活支援	18	多様な学生への適切な支援	III	III	III	・多様性を尊重する態度の醸成	・ジェンダーに関するおたより配信
			19	経済的に問題を抱える学生への対応	III	III	III		・奨学金在学採用説明会17回実施
			□ キャリア形成支援	20	学生による主体的なキャリア形成及び就職活動の支援	III	III	III	・キャリア関係教職員間の情報共有、キャリア科目の効果的利用、ゼミ教員等との連携によるキャリア支援 ・入学後の学びと卒業後の就労状況関係分析を踏まえたキャリア開発指導 ・地元企業団体や医療機関との連携による地元就職、Uターン支援強化
21	インターンシップの充実等を通じた学生の社会人基礎力の向上			III	III	III	・低学年からのインターンシップ説明会参加を促進 ■【指標】卒業生就職率（100%/年） ■【指標】看護師国家試験新卒合格率（100%/年） ■【指標】保健師国家試験新卒合格率（100%/年）	・宮城県MINT事業と協力したバスツアーの実施 ・企業と連携したインターンシップ動画、上級生のインターンシップ経験動画、インターンシップ学外研修実践事例動画の作成・貸出しによる講義と連動した学内外での学びの機会の確保 ■【指標】卒業生就職率（100%） ■【指標】看護師国家試験新卒合格率（100%） ■【指標】保健師国家試験新卒合格率（100%）	
（3）教育実施体制等	13			教育研究組織の整備	III	III	III	・大学改革の理念・目的に適合した組織体制となっているか点検し、必要に応じて改善	・リカレント教育推進本部設置
□ 教員・教員組織	14	教員組織編成方針等に基づく教員の適切な配置	III	III	III	・教育研究活動を展開するために必要な教員を適切に配置	・学系組織の在り方検討		
	15	教員評価制度等による教員の適切な評価と質の向上	III	III	III	・教員評価制度検討委員会による点検を通じ、必要に応じた教員評価制度の随時改善	・教員評価結果を勤勉手当成績率に反映		
	16	ファカルティ・ディベロップメント等を通じた教員の自己研鑽と教育の質の向上	III	III	III	・望ましい教員像及び教員組織の編成方針の策定 ・階層化レベルでの活動が効果的に連動するFD実施継続	・望ましい教員像及び教員組織の編成方針の策定プロセス推進 ・マクロ1件、ミドル10件、ミクロ13件のFD・SDを実施		
	17	学生支援方針等に基づく学生への支援	IV	III	III	・学生の4年間の行動に学修行動調査に関する比較・分析	・ALCS学修行動比較調査 回答率78.44%→89.50% ・5 類移行後は通常どおりサークル活動等の正課外活動を許可		
	18	多様な学生への適切な支援	III	III	III	・多様性を尊重する態度の醸成	・ジェンダーに関するおたより配信		
□ 学修・生活支援	19	経済的に問題を抱える学生への対応	III	III	III		・奨学金在学採用説明会17回実施		
	□ キャリア形成支援	20	学生による主体的なキャリア形成及び就職活動の支援	III	III	III	・キャリア関係教職員間の情報共有、キャリア科目の効果的利用、ゼミ教員等との連携によるキャリア支援 ・入学後の学びと卒業後の就労状況関係分析を踏まえたキャリア開発指導 ・地元企業団体や医療機関との連携による地元就職、Uターン支援強化	・進路未決定者情報の定期的収集、効果的なマッチング・進路相談 ・入学後の学びと卒業後の就労状況との関係分析データ収集、統合作業実施 ・中小企業家同友会、仙台商工会議所等との連携 ・公務員試験対策等外部講師やOBOG等による講座、若手公務員や医療従事者との交流の実施	
		21	インターンシップの充実等を通じた学生の社会人基礎力の向上	III	III	III	・低学年からのインターンシップ説明会参加を促進 ■【指標】卒業生就職率（100%/年） ■【指標】看護師国家試験新卒合格率（100%/年） ■【指標】保健師国家試験新卒合格率（100%/年）	・宮城県MINT事業と協力したバスツアーの実施 ・企業と連携したインターンシップ動画、上級生のインターンシップ経験動画、インターンシップ学外研修実践事例動画の作成・貸出しによる講義と連動した学内外での学びの機会の確保 ■【指標】卒業生就職率（100%） ■【指標】看護師国家試験新卒合格率（100%） ■【指標】保健師国家試験新卒合格率（100%）	
		（4）学生への支援	13	教育研究組織の整備	III	III	III	・大学改革の理念・目的に適合した組織体制となっているか点検し、必要に応じて改善	・リカレント教育推進本部設置

		No.	主な内容	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R5計画	R5実績	
2	研究	22	研究方針等に基づく戦略的な研究活動の推進	III	III	III	<ul style="list-style-type: none"> 研究推進・地域未来共創推進費活用、教育力強化に資する取組継続実施 特別研究費等 適切な制度設計検討 「宮城大学研究・共創フォーラム」の開催による教員間、学外者との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな研究倫理プログラムの本格導入、対象教職員受講完了 第3期中期目標達成のため、審査の基本的な考え方の見直し 「宮城大学研究・共創フォーラム」学内外190名の出席 	
		23	研究力の強化による社会的評価の向上	III	III	III	<ul style="list-style-type: none"> ■【指標】教員一人あたりの研究成果発表件数（1.2件/R5） 	<ul style="list-style-type: none"> 「研究成果公開促進助成制度」290,559円の助成 ■【指標】教員一人あたりの研究成果発表件数（2.7件） 	
		24	外部資金獲得による研究推進及び企業や外部機関等との連携の推進	III	IV	IV	<ul style="list-style-type: none"> URA機能強化 企業訪問等を通じた積極的な情報発信、連携機会の創出 ■【指標】外部資金獲得総額（199,750千円） 	<ul style="list-style-type: none"> 科研費獲得に向けた勉強会開催、教員60名参加 相談対応100件、企業等訪問201件。「ビジネスマッチ東北2023秋」「みやぎ地域連携マッチング・デイ2024」参加 東北大学歯学部、農学部との研究連携による食学拠点運営、部局間連携推進 ■【指標】外部資金獲得総額（257,485千円） 	
3	教育研究環境の整備	25	教育研究環境等の整備・運用	III	III	III	<ul style="list-style-type: none"> 計画に位置付けた大規模修繕工事（大和C4件、太白C1件）実施 ネットワーク基盤システムR5.8月更新 為替変動を考慮した適切なコンテンツの提供 研究ジャーナルのより円滑な発行体制強化 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度予定工事を着実に実施 令和6年度工事円滑実施に向け、令和5年度内に設計業務5件実施 実験実習機器更新費 65,540千円予算化 ネットワーク基盤システム更新 	
		26	図書館及び学術情報と関連サービス、プログラムの提供	III	III	III	<ul style="list-style-type: none"> 研究ジャーナルのより円滑な発行体制強化 	<ul style="list-style-type: none"> 洋雑誌・電子ジャーナルのニーズ調査実施。調査結果をもとに契約誌選定、バックページタイトルの入替等対応 宮城大学研究ジャーナル3巻1号発刊 閲覧数2,717件、DL数1,451件 	
		27	研究費の適切な配分	III	III	III	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的研究費の一律配分、特別研究費の配分検証、制度見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度より若手研究者審査において一定の考慮を行うことを決定 	
第2 地域 貢献 等	1	地域貢献	28	本学が有する知的資源の地域への還元	III	III	III	<ul style="list-style-type: none"> 研究シーズに重点化したオンライン公開講座等を企画・開催 研究情報や地域共創の取組に関する効果的な情報発信 ■【指標】公開講座等への延べ参加者数（1,600人/年） 	<ul style="list-style-type: none"> オンライン公開講座8企画、学群公開講座12企画、総合計画策定自治体向けセミナー1企画、看護人材育成等セミナー15企画、大崎市移動開放講座6企画、宮城大学研究・共創フォーラム1企画、みやぎの食の絆シンポジウム1企画開催 PLUS ULTRA-利用実績154件、うち外部利用58件 ■【指標】公開講座等への延べ参加者数 7,508人（オンライン再生回数6,271回、参加者1,237人）
			29	自治体・企業・医療機関等との連携による受託事業、受託・共同研究等の推進	III	IV	IV	<ul style="list-style-type: none"> 企業・自治体等との連携強化、自治体への講師派遣 企業・自治体等との受託事業、連携事業等の実施 企業等との協定に基づく連携推進 JCHO仙台病院との連携協定締結、新たな協定先の開拓 ■【指標】市町村等の各種委員・講師の派遣件数（300件/年） ■【指標】市町村や企業等との連携事業・受託事業数（14事業） 	<ul style="list-style-type: none"> 富谷市受託事業による地域活性化支援 KCみやぎ産学共同研究会事業3件採択、県内企業支援 宮城県との勉強会開催 宮城県議会議員選挙「センキョ割in宮城」協力 「塩釜仲卸市場こどもチャレンジラボ2023」企画協力 泉パークタウン町内会との一斉クリーン作戦 JCHO仙台病院・仙台市社会福祉協議会・人來田学区連合町内会、宮城県信用保証協会との連携協定締結 ■【指標】市町村等の各種委員・講師の派遣件数（718件） ■【指標】市町村や企業等との連携事業・受託事業数（24事業）
			30	東日本大震災からの復興支援	III	III	III	<ul style="list-style-type: none"> カーボンニュートラル取組推進等による新たな産学官連携モデルを推進 災害看護プログラム 効果的教育方法の実践、自治体等との連携体制構築 被災地等課題先進地域における人材育成のためのリカレント教育、他大学との異分野連携による新たな教育研究活動推進 震災復興、災害対応に関する教育研究成果の学外発信 	<ul style="list-style-type: none"> JST共創の場において宮城県、南三陸町ら関係機関とカーボンニュートラルに関するサーキュラー・エコノミーを進展 災害看護プログラムにて台風19号被災地丸森町でのフィールドワーク実践。大学近隣自治体等との連携により、災害時要配慮者支援ニーズの把握、見守り体制理解への支援等を実施 リカレント教育推進本部設置、各学群リカレント教育体制構築 （看護）MYU-TOWNにおける災害ツアーコンテンツ、学生地域防災組織との協働による社会貢献活動について、看護系シンポジウム、フォーラム等で指定発言等を実施
31	地域の災害レジリエンス強化に向けた支援	III	III	III	<ul style="list-style-type: none"> 受託事業、共同研究を通じた災害レジリエンスに係る政策提言 公立大学防災研究教育センター連携会議参画による大学ネットワーク強化、防災・復興・減災に関する全学的情報共有のあり方検討 災害レジリエンスに関する研究活動の推進、発信 ソーシャルアントレプレナー育成 	<ul style="list-style-type: none"> 河川財団 流域の概念、水災害等インタラクティブ教材の検討・開発 仙台市消防局 市民向け防火・防災プロモーションデザインの企画・制作・発表 公立大学防災研究教育センター連携会議参画、全国の大学とのネットワーク強化 指定研究にて農業水利施設の重層的管理について報告 JST共創の場 地域におけるカーボンニュートラルの提言「持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム2023」にて発信 日本災害復興学会2件寄稿（被災沿岸部におけるソーシャルビジネスによる地域産業再生の取組） JST START事業「EDGE of ISLAND」「レジリエント社会の構築を牽引する起業家精神育成プログラム」 			

評定・概要一覧

		No.	主な内容	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R5計画	R5実績
2	国際交流	32	国際交流方針等に基づく連携先の開拓や交流環境の整備	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	・留学情報、留学体験記を学内ウェブサイトに掲載し、大学全体の留学機運を醸成 ・マレーシア、オランダでの海外研修プログラム実施 ・JETROと連携した「グローバルビジネス」の実施 ・（看護）実践看護英語演習の科目履修条件緩和	・学内ウェブサイト刷新。長期留学学生からの留学体験動画毎月配信 ・JASSO奨学金採択。短期・長期派遣学生を支援 ・マレーシア、オランダ研修初実施 ・「グローバルビジネス」講師にJETRO仙台センター所長を招聘 ・ニュタ大学にて海外FW研修実施 ・（事業）JICA連携グローバルプログラム5科目開講 ・（看護）JICA青年研修アフリカ英語圏「母子保健管理コース」8名受入 ・（看護）実践看護英語演習 開講時期変更 ・commonsを活用したアルゼンチン大学生との交流プログラム、留学生との交流会、海外研修報告会実施等
		33	多様な交流プログラムを通じた学生の国際的視野の涵養	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	・ニュタ大学での「海外フィールドワーク研修」、学外研修（オランダ研修、リアル・アジア（マレーシア））実施 ・協定校長長期派遣再開 ・短期留学生を巻き込んだ大学全体の国際交流の促進 ■【指標】海外派遣学生枠（200人/年 令和8年度）	・ニュタ大学での「海外フィールドワーク研修」実施 3名参加 ・長期派遣再開（フィンランド3名、オーストラリア1名）、CSUSB長期派遣体制構築 ・フィンランド協定校から短期留学生3名受入 ■【指標】海外派遣学生枠（80人（参加者32人））
第3 業務 運営の 改	1 運営の改善	34	適切な大学運営のための組織整備、国や他大学の動向等を踏まえた経営の効率化	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	・内部監査の充実、効率的な大学運営のあり方の検討	・「理事長・学長分離型」に伴う組織体制の整備 ・内部監査体制の強化、内部監査の充実
		35	中期計画と連動した戦略的な予算配分	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	・適切な予算編成	・教育研究予算に関する要求基礎額の引き上げ
		36	人事異動方針等に基づく事務職員の適正な配置	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	・他団体との人事交流等推進	・他機関への派遣研修検討
2	人事の適正化	37	教育研究支援体制の充実・強化と人材の育成	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	・組織的SD等の実施	・「エンrollment・マネジメント」をテーマとした全学FD・SD実施
		38	業務執行等の効率化・合理化	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	・教職員の業務改善奨励 ・柔軟な働き方推進	・学校行事等参加休暇新設
第4 財務	1 自己収入の確保	39	学納金等の安定的な確保	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	・授業料その他の各種学生納付金に関する適正な負担額の検討	・公開講座受講料上限額の引き上げについて県に打診
		40	その他自己収入の確保	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	・学内施設外部貸付の適切な実施 ・ネクストリーダーズ基金の実施	・敷地内キッチンカー営業受入による学内資源の有効活動、学内者アメニティ向上 ・ネクストリーダーズ基金事業実施（1,489千円）
		41	業務効率の向上と経費抑制	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	・契約内容の随時見直しによるコスト削減や業務の簡素化、合理化	・情報ネットワーク基盤システム更新業務等3契約の契約を一本化し、業務の簡素化・合理化で事業費用削減
第5 評価	1 自己点検・評価の充実	42	施設・設備等の適切な維持管理	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	・委託業者と連携した計画的な施設保守点検、余裕資金の確実な運用	・委託業者による定期的な保守点検実施
		43	認証評価の評価基準等も見据えた自己点検・評価の実施と公表	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	・年度評価動向注視（R6以降廃止予定） ・R5.7月末 改善報告書提出 ・R7大学評価受審機関決定	・年度評価の廃止について、第4期中期計画期間から適用となることを確認 ・令和5年7月末に改善報告書を提出 ・次回認証評価受審機関を大学教育質保証・評価センターに決定
2	情報公開の推進等	44	内部質保証システムに基づく各PDCAサイクルの実施と定着化	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	・内部質保証システムチェックシートに基づいた自己点検・評価実施。改善課題等の共有体制の整備、教育研究活動等の質保証及び向上 ・（看護）看護学教育評価受審に向けた点検（R6受審予定）	・R7認証評価受審に向けた評価項目の確認及び改善課題の洗い出しを実施 ・内部質保証システムの点検、要綱改正 ・（看護）看護学教育評価受審に向けたWGによる点検、点検内容に関するFDの実施、意見交換
		45	広報基本方針等に基づく全学広報の推進	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	・全学的な広報推進体制、タイムリーかつ情勢に応じた戦略的な広報施策の維持・推進	
第6 その他	1 施設整備の整備・活用等	46	施設整備の整備・活用等	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	・計画に位置付けた大規模修繕工事（大和C4件、太白C1件）実施	・大規模修繕工事（大和C4件、太白C1件）実施
		47	安全で衛生的な労働環境の確保	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	・事業場衛生委員会を定期的に開催	
		48	情報セキュリティを含む安全安心な教育研究環境の整備	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	・定期的な防災訓練、災害発生時に備えた資機材等の備蓄確保 ■【指標】個人情報漏洩事故件数（0件/年）	・ハイブリッド方式の防災訓練実施 ■【指標】個人情報漏洩事故件数（0件）
3	人権の尊重	49	人権侵害の防止に向けた体制整備と取組強化	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	・宮城大学人権侵害防止及び対策本部開催	・性暴力防止に関する規程検討